

## スポーツ推進施策に対する考えは

スポーツの力で定住者の交流を活発化させたり、スポーツを目的に市外から訪れる人を増やして交流人口の増加を目指す

一問一答方式



小川 貴夫 議員  
自民クラブ

### スポーツ振興施策について

**問** 小・中学生を対象に実施した「スポーツの時間を増やしたいか?」のアンケート結果は。

**答** 小学校5年生で50.5%、中学校2年生で56.9%が、時間を増やしたいと回答があった。

**問** 中学校の部活動で、遠征等のバス料金が高騰しているとの声があるが対応策は。

**答** 部活動奨励交付金での対応を検討していく。

**問** 市ホームページの「輝く田原のスポーツ選手」のコーナーをトップページで積極的にPRしては?

**答** 検討していく。

**問** 市民のスポーツ実施を推進するための施策は。

**答** 市民館や公共施設にスポーツ器具の整備を行い、その活用を推進するプログラムや教室の開催等を検討していく。

**問** スポーツ合宿誘致の考えは。

**答** 平日昼間の体育館、冬場のグラウンド等の有効活用を考えたい。条件付で施設の先取り予約等について検討している。

**問** 田原市総合体育館や渥美運動公園等に指定管理者制度を導入する考えは。

**答** 滝頭公園など既に導入しているスポーツ施設もあり、事業提案があれば検討していきたい。

**問** スポーツ推進施策に対する教育長の考えは。

**答** 策定中のスポーツ推進計画にあるように、スポーツを通して豊かな心を育み、健康で幸せに暮らせるよう、生涯スポーツを推進していく。スポーツの力で定住者の交流を活発化させたり、スポーツを目的に市外から訪れる人を増やして交流人口の増加を目指す。



12月12日 小川泰弘選手 少年野球教室

**答**

ごみが減れば発電量はそれだけ減るといふことで間違いない。

**問**

平成34年度から38年度でごみを1、400トン減量するといふことは、単純に考えればそれだけ熱量が失われ発電できない。間違いないか。

指す。38年度には1万1千7百トン（35%減）への削減を目指す。

**問**

ごみ減量の目標と年度は。

H26年度の燃やせるごみ1万8千トンから、広域化する平成34年度には1万3千百トン（27%減）へ、平成38年度には1万1千7百トン（35%減）への削減を指す。

**答**

広域化で整備しようとしている新たな処理施設では、発電量を維持するためにごみを確保したり、増加させる考え方はなく、ごみ減量化による経費の軽減も目指している。

**問**

田原市ごみ行政の転換について

国は交付金を引き上げ、高効率ごみ発電施設によるごみ発電を誘導しているが、ごみ発電とごみ減量化は相反するのではないか。

一問一答方式

稼働目標は平成34年度、設置場所は豊橋市資源化センター周辺

豊橋田原ごみ処理広域化計画  
に向けての現状は



河邊 正男 議員  
日本共産党田原市議団